

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770402444		
法人名	医療法人社団 秀友会		
事業所名	グループホーム「サンファミリー」		
所在地	福島県いわき市常磐藤原町大畑13-1		
自己評価作成日	平成23年7月22日(金)	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが、生き活きと穏やかに過ごせるように、スタッフが生き活きと笑顔で接するように、また、安全に生活できるよう、スタッフ同士が統一したケアを行えるように努力している。入居者の方々は、できること、やりたいこと、やっていたことなどをお願いし、感謝の意を忘れずに、存在意義を感じていただいている。季節感を感じる食事を提供するため、旬の食材を使用したり、体調に応じた食形態にしている。ホーム内外に季節の花や飾り付けを行い、明るく和らぎのある雰囲気作りに努めている。また、食事も装飾もスタッフと一緒に作ることで、活動自体も楽しんでいただいている。外部研修へも積極的に参加し、よりよいケアのために努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 外部研修へ積極的に参加させ、職員の資質向上を図るとともに情報共有をしている。
2. 職員は利用者によりゆとりと向き合い希望を聞き取るように工夫をしている。利用者は落ち着いた穏やかな表情で過ごしている。
3. 地域の「小さい施設の会」に加入し、様々な情報を得て、職場の支援環境に反映している。
4. 毎月の便りに利用者のベストの写真を添え、最新の状況をきめ細かく伝える努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有をはかるため、事務所内に掲示したり、年度初めや年末などに理念にふれ、確認して意識付けをしている。	理念を職員が常に出入りする事務所に掲げている。管理者と職員はミーティングの際やカンファレンスの時に理念について話し合い、理解して業務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会や文化祭等の行事への参加や、小学生や保育園幼稚園児とのふれあい会への参加し、交流を深めている。	近くの小学校から、運動会の招待状が届けられ利用者が参加している。また学校行事のふれあい会を通して児童が事業者を訪問して交流をしている。また、管理者が地区の老人会の会合で講師として招かれ認知症の講演をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れは積極的に行い、地域包括支援センターと協力して老人会での認知症予防の話しをするなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域の情報の共有や、ホームの課題について意見を載している。	運営推進会議は定期的開催していたが、今回の震災で2回開催できなかった。委員に地域の区長や地域包括支援センター職員がメンバーになっており、地域行事の情報が得易く、利用者が各行事に参加している。	委員から提案された事項がどのように反映、解決されたかが議事録から読み取り難い。経過が一連で解るような議事録の書き方に工夫が欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に地域包括支援センターと積極的に情報交換したり、協力して活動している。	更新申請に行ったときなどに情報を得、分からないことがあれば、担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外はドア、非常口、窓も開放。身体拘束はどんなものかをカンファレンスを通して共通理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に係る研修をしており、身体拘束の弊害を勉強し、共有している。カギをかけないことで職員は緊張感を持って支援している。外に出たがる利用者には声掛けなどに工夫し、職員同士連携しながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちのケアが虐待になっていないか相互に確認し、必要に応じて管理者と個人面談し考え、問題解決の検討を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加とホーム内での伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に1項目ずつ具体例を挙げて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を決めている。また、面会や電話時に不安や相談事がないか確認している。	管理者、職員ともに話し易い雰囲気があり、事業所を訪問した家族が気兼ねなく話している。また、毎月のお知らせを発送する際に返信用封筒を入れ、家族の意見を求めたりするなど工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に話し合いを持ったり、研修会などに参加して新しい知識を得ることで、運営に反映させている。何でも管理者に相談する。	外部の研修に参加することで、職員がいろいろな気付きにつながり、意見や提案を出し、業務に反映している。管理者も気軽に相談できる雰囲気で職員に接し、職員は忌憚なく何でも話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのレベルに応じた研修への参加や、仕事の役割を決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、その伝達講習を行っている。また、居室担当制を用いている。交代勤務でスタッフ同士の業務理解、相互に協力することでチームケアを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の事業所と積極的に連絡を取っている。(常磐地区 つどい)グループホーム連絡協議会への参加等を通して、研修参加や、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に知り得た情報を活用しながら、本人の話をよく聞く。不安や困りごとと一緒に考えたり、付き添うことで解消している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を進めるのではなく、困りごとや要望をきちんと聞いて確認。ご本人も交えて話しをすることでスタッフの対応の仕方などを見ていただき、安心につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が何を望んでいるのか、状況や話しの中からの的確に判断して、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に何かをする場面を多く持ち、仕事をお願いしたり、昔のはなしを聞かせてもらったり、様々なことを共有できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、ご家族へ送る手紙の中で、本人の思いを伝えたり、面会時に話しをしている。ご家族でなければできないケアがあることを理解してもらえよう、話しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、買い物、自宅やなじみの場所に行けるように支援している。	家族等の面会が多くなるように管理者が働きかけをしている。また家族の協力を得て利用者はお墓参りや馴染みの美容院、趣味の材料の買い物などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングが入居者・スタッフが一堂に集まって過ごす場になっている。合う、合わないの利用者同士の関係を確認しながら、トラブルや孤立がないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた方への面会や、入院中のご家族の相談に乗るなどして、これまでの関係性が切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人1人に担当を配置して、ゆっくりはなしを聞く時間を作り、希望や思いを聞いている。カンファレンス時に話し合い、ケアの方向性を決めている。	職員が利用者や家族から聞き取ったことを計画に反映している。聞き取りが困難な利用者には、具体的な例を示し、その中から何がしたいのか選んでもらったり、くみ取ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、兄弟などから生活歴を聞き、記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録から生活のリズム、行動、言葉、できること、興味のあることをつかみ、カンファレンスや申し送りにおいてスタッフ全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者1人に対して3ヶ月に1度のカンファレンスを開催し、ご本人、ご家族、スタッフの希望や意見が反映しプラン作成できるようにしている。	定期的カンファレンスやモニタリングを行うが、利用者の状態に変化が生じた場合は全職員で話し合い現状に即した介護計画を作成している。職員は利用者一人ひとりの介護計画を理解し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、バイタル情報、日々の暮らしの様子を記録。注意点は申し送りで共有し、ノートにサインする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて通院や美容室の利用、帰宅への付き添いを対応している。また、外泊や外出などに際しては、介護用品の貸し出しや食事の相談にも応じている。ホームへの宿泊も可能だが、利用者は居ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の訪問や、併設施設のリハビリ、ボランティアの活用にて、好きなことや希望に添える対応ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医に受診。状態に応じてご家族、スタッフが一緒に付き添う他、往診してもらう。	受診は本人及び家族の希望するかかりつけ医に職員が付き添い、その結果を随時家族に報告している。また、緊急時には協力医の往診もあり、家族とともに職員も付き添って受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師や受診した協力病院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やSW、ご家族と密に連絡を取り、対応可能な状態となれば、早期に退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のご家族の意向を聞くが、その時になってみないとご家族の本当の気持ちは分からない。相談があるごとに、主治医の判断を仰ぎながら、対応可能な範囲(食事がとれるか否か)話し合っている。	重度化や終末期の指針があり入居時に説明し同意を得ている。利用者に重篤な変化が生じた場合には、医師と連携し、事業所の出来ること等を家族に伝え理解を得ながら、全職員が共通認識で支援するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を順次受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行うと共に、緊急時の対応マニュアルは、すぐに取り出せる場所に設置している。	隣接する同法人の老人保健施設と共に、消防署立ち合いのもと年2回総合防災訓練を実施しており、毎月ミニ避難訓練を行っている。しかし、近くに民家が少ない立地であり地域住民は参加していない。	区長を始め、近隣の企業等にも防災訓練への参加を呼びかけ、種々の災害を想定しての訓練が必要かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	作業は、本人の意見を聞く。(やってもいいか、やりたくないか)排泄の失敗、トイレ誘導は、他の人に悟られぬように声をかけ、介助する。	一人ひとりを尊重し、言葉かけには十分注意を払いながらプライバシーを損なわないように支援している。特別な事情を除き、居室には名札をかけていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるような声かけをしている。(服、ドレッシング、おやつなど)また、自己決定がなかなかでない方に対しては、うなずきやジェスチャーで答えられるような聞き方をする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、本人の気持ちに配慮して、穏やかに過ごせるよう、どうしたいか尋ねる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服はアドバイスしながら、一緒に選んだり、すてきな服を着ているときや髪を切ったときは、大いにほめる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	誕生日には、自分の食べたいものをリクエストしていただく。旬のものを購入したり、味見や盛りつけ、片付けを手伝ってもらう。	食事を作る専門職員がおり、常に利用者の嗜好に耳を傾け、旬を盛り込んだ献立を工夫している。利用者の出来ること(下ごしらえや盛り付け、片付け等)は手伝ってもらうよう心がけている。利用者も職員も和気あいあいの中で美味しい食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食形態や量、医師の指示もふまえて配慮。水分摂取も記録をとって、確実に摂取できるようにしている。毎月月初めに体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯預かりやうがいなど、個々に応じた対応をしている。また、食後の緑茶をしっかりと飲んでいただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録から、個々に応じた時間を見計らって誘導している。残存機能を利用して、なるべくトイレで排泄できるようにしている。	排泄記録をもとに全職員が意見を出し合いトイレ誘導のベストな時間帯を見つけ出し、利用者の失敗を少なくする支援をしている。おむつ使用で入居した利用者が入居まもなく自立に向かった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、豆乳もしくはヨーグルトを摂取していただくほか、食材や水分量を検討している。下剤を使用している人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴している。シャワー浴や清拭、足浴などは個人の状態に合わせて入浴を行う。夕食の前後に入浴していただいている。	入浴は基本的には1日おき、午後の時間帯と夕食後の時間帯の好きなほうを選んでもらい、ゆっくりと実施している。種々の入浴剤を準備し、好みや季節に合わせて使用している。また、個々の体調により、シャワー浴・足浴・清拭を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やし、生活リズムを整えている。不穏を訴える場合は、はなしをよく聞き、安心して休めることを説明する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のない様に2人以上で確認し、内服援助を行う。薬の入っているファイルに、処方薬の一覧を添付しており、いつでも確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味など、入居者の経験が生かされるような場面作りに努めている。また、ご家族への電話や外出、スタッフとの外食やドライブなどを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、受診のついでに自宅付近のドライブなど、可能な限り行っている。また、ご家族の協力を得て、帰宅や買い物に行けるようにしている。	利用者の重度化に伴い、今まで行っていた外出や散歩は若干縮小された利用者があるが、天気の良い日は駐車場を散歩している。また、食材の買い出しに、利用者同行してもらっている。家族の協力を得て、帰省したり食事に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望したものが購入できるようにしている。お金を所持している人もいるが、使う範囲は限られている。(自動販売機、公衆電話など)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を書く人はいないが、入居者の希望に応じてご家族や友人と話ができるように、電話をかけるなどの援助を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を入居者と一緒に作る。季節がわかりやすく、色彩がハッキリしたものを選ぶように努めている。また、湿温計を設置し、快適な温度管理を行っている。	壁には季節を感じる装飾があり、食卓には小菊が飾られていた。テレビの前や廊下の休憩しやすい場所にソファを配置して、利用者がゆっくり寛ぐことができる。トイレ、浴室ともゆったりとしたスペースである。震災以降は浴槽に常に水を張って緊急時に備えているため、危険防止上、浴室を使用しない時間帯は施錠している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを3カ所にもうけ、個々が思い思いに過ごせる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	アルバムや家族の写真を飾ったり、自宅で使用していたタンスやイスなどを設置することで、安心できるように工夫している。	居室は全室とも日当たりがよく、和室と洋室がある。利用者の持参したベッド、タンスや椅子などの馴染みの家具等を使いやすく配置し、利用者の手作りの作品等も飾り、一人ひとりの個性を重視した居室作りをして過ごしやすいように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレには、わかりやすい目印をつけてある。手すりを使用しての移動や浴槽のまたぎなど、安全でできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		